

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201377		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム・ハーモニー		
所在地	松本市島内広田 4068-1		
自己評価作成日	平成22年7月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・理念:「今が一番」「今を楽しく」「今を豊かに」を原点に自由に思うがままの生活ができる。嫌だと思うケアはしない、自分らしい毎日が過ごせるよう支援していきます。</p> <p>・目標: 1 利用者さんを主体にお互いに楽しいお付き合いをして行こう 2 チームワーク互いに理解し合う</p> <p>開設6年が経過し、当初から入居されている利用者さんも半数以上がそのまま生活していただいています。徐々に年齢を重ね毎日の生活もままならない日々もありますが、ご自分の力で日常生活が最大限発揮でき、居心地が良い生活の場の提供ができるよう心がけています。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070201377&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム ハーモニーは、法人の経営するディサービス、老人保健施設に隣接して平成17年に設立された。開設6年目を迎え、利用者の「今の気持ち」を大切に支援される姿勢は、利用者、家族、地域住民に信頼されている。昨年度の課題であった終末期に向けた同意書は、事前調査書、看取りの指針とともに作成された。利用者が安心して納得した最期を迎えられるような医療連携体制と、職員の理解と意欲を持つための勉強会等、終末期の対応への取り組みがされている。また、日々のケアを振り返り、「本人の気持ちはどうか」という視点でチームでの検討が行われ、日常的に意向の把握に努められている。今回、成年後見人制度の利用の続きが行なわれるなど、市との連携も円滑に進められた。職員の外部研修の受講や、他施設との情報交換や交流も図られ、サービスの質の向上への取り組みが実施されていた。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年8月31日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1Fフルート)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2Fハーブ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年1年間の反省と共に理念の見直し、利用者のニーズと自分たちが目指す目標など話し合いをもち実践につなげるよう心がけている。	「今が一番」「今を楽しく」「今を豊かに」を原点にした支援は、利用者、家族、地域住民等に周知され、支持されている。事業所の理念は、日々のサービスの提供場面の中で、職員が常に立ち戻る根本的な考えとなっており、実践につなげてる様子がかがった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例で地域の老人会の花見、文化祭などの交流会が定着している。季節に応じて果実の収穫時には近所から何回にも分けて差し入れがあったり、ホームで収穫した野菜などのおすそ分けをするなど交流が定着してきた。	「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係をめざして取り組まれてきた。地区文化祭への出品、ホームで収穫した野菜のおすそ分け、納涼会への招待など、地域との交流が継続して行われている様子が確認できた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートによる地域への認知症学習会に参加できた。人材育成の貢献として積極的に介護福祉士、看護学生などの実習やボランティアを受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月ごとに開催しており、家族、利用者さんを含めた納涼会、花見による交流会など含め日常生活の様子を見ていただいたり、情報交換を行っている。	運営推進会議は、包括支援センター職員、民生委員、地域役員、利用者家族等参加のもと、年6回を目標に開催されている。ホームの行事に合わせて開催することにより、利用者の状況やケアの実情について、参加者の理解を得られる取り組みとなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見制度を利用するにあたり、市担当者と話し合いを持ったり、情報交換を行い協力を得ている。	成年後見制度利用による、市担当者との情報交換や協力関係はあったが、高齢福祉課の窓口との連携は十分ではない。	市民福祉充実の為に、市の担当者が現場の状況を把握することは重要である。実践現場と施策の整合性を図るためにも、事業所の職員や利用者との交流を図れるような取り組み(市職員の研修場所としての事業所の活用など)を、期待する。

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護、身体拘束に関する研修を受け、職員間で伝達講習を行い、利用者の抑圧感を招いていないかケアカンファレンスにより日常のケアの質向上を図るよう努力している。	職員は研修や勉強会を通じ、身体拘束による弊害を理解し、拘束の無いケアの実践をされていた。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒についていくなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう努められていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、伝達講習を行っている。そこで自分たちのケアや、何気ない会話から虐待行為がないかどうかケアカンファレンスを行いながら個々努力している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者さんに成年後見制度の利用を今年度より開始し、職員間で学習会を持ち制度の内容、利用方法の手順など行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、ケアプランの同意時、運営推進会議などにおいて意見、苦情、要望など気楽に出せるような雰囲気づくりに心がけている。	家族の意向により、家族会は結成されていないが、面会や行事の折には家族の意向、要望を表せる機会を設け、ケアプランに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じてミーティングを行い意見交換を行っている。年1回個人面談を行い常に意見、要望など随時出せるような雰囲気づくりに心がけている。	管理者による個人面談やミーティングにより、職員の意見や要望が運営に取り入れられている。管理者が日常的に介護の状況や実情を把握することで、職員との信頼関係も構築されている。	

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間を通して研修、自己研鑽の努力など自己評価表を用い実績が分かるようにしている。管理者は運営者に対し、職員個々の努力や実績、ケア状況など報告し、各自が向上心を持って働けるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に多くの職員が受講できるように計画している。研修報告は勉強会で発表し、全職員が常に閲覧できるように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと共同で認知症の勉強会に参加(常に7~8名)をし、質の向上に励んでいる。連絡会では2ヶ月に1回の割合で交流会を持ち、互いの悩み、問題、制度など相談できる環境にある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人の求めている生活形態をなるべく崩すことがないよう家族、ケアマネとの入念な情報交換を行い、できる限り安心した生活が送れるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、悩み、意見など気持ちを聞き取った上で、事業所としての対応を話し合い、職員全員が把握できるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望する家族との話し合いを持ち、今の気持ちを理解した上で、また即入所できない場合の対処方法として、他施設の紹介やサービスの利用方法など説明している。		

外部評価結果(ハーモニ-

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するのみではなく、共に生活する者として協力し合える環境づくりに努めている。悩みや気持ちを共有できるように利用者さんの性格や、思いを把握し各利用者さんに合った声かけを行うよう配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望、意見を伺うのみではなく、施設行事への参加などを提供して参加いただく事で、共に支えていることを実感して頂いている。緊急時には家族へすぐに連絡を行えるよう体制を整えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域へのドライブや、行きつけの美容院への支援など、なじみの場所を継続的に関わりが持てるように配慮している。	本人を支えたり、本人が支えてきた人間関係を職員は把握し、墓参りやドライブ、美容院への付き添い等の支援がされていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事時には職員も同席し、共通の会話を持つよう努力している。またできるだけ個別に関わり話を聞いたり、外出のきっかけにより一体感になれるよう名環境づくりに努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になって利用者さんのケアの状況、習慣、工夫点などの情報の伝達を行い環境で変わったことからくる心身のダメージなどを考慮した支援を電話や訪問により行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの意向を中心においてプランを計画し、思いが偏らないよう家族に確認したり、カンファレンスで職員の意見交換を行いケアの方向性を話し合っている。	散歩、食事メニュー、入浴など、利用者の意向をふまえ、希望にそったサービスの提供に努められている。楽しみごとや役割の場面も本人本位に検討し、利用者が生き生きと生活できるような取り組みがされていた。	

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を把握することで、一人ひとりのなじみの暮らしとの差を最小限にとめるよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の声がけを通して、利用者さん一人ひとりの1日の過ごし方を把握できるよう努めている。ケア内容は個々の力に見合った作業を実施し、それぞれの力が発揮できる環境づくりに心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さん、家族の要望を盛り込み、3ヶ月に一度ケアプランの見直しを行い実践に生かしている。また行き詰まったケアの解決方法にもつながっている。	利用者、家族の意向をふまえて、スタッフで話し合いケアプランを立案している。定期的な見直しのほかに、利用者の表情などから、「本人が本当に望むことは何か」をケアの中で検討し、日常的に話し合い、プランの修正を行なっている様子をうかがった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの日常生活の様子が一目で確認できるワークシートを工夫し活用している。職員が気づいたことや、情報などはその都度個別に記録し共有を図っている。また記録を基に計画の見直し、評価を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望する日に買い物や、美容院、お墓参り、体調を崩したときにその都度、病院に受診するなど対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんのレベルに応じた作品づくりや地域の文化祭や花見 音楽文化ホールでのコンサート、演芸など見て気分転換を図っている。約1,5ヶ月ごとに美容ボランティアの協力も得られている。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望される方は家族の協力を得ながら継続をしている。また緊急での医療受診の際には職員が同行し、情報の提供や、指導を受けるなど日常生活の中で健康管理を行っている。	看護職員とホームの協力医との連携により、日頃の健康管理は適切に行なわれている。かかりつけ医への定期受診は、家族が利用者の状態を把握する大切な機会であるため、原則的には家族同行であるが、臨機応変に職員も対応されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり日常ケアの中で、常に異変の情報をキャッチし、医師との連携がスムーズに行われるため早めの対応ができ重度化の防止と、入院をできる限り最小限に抑え施設内でのケアが続けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては病院関係者との連携を持ちながら情報交換をし、早めの退院に向けて、その後のケアやり八ビリに対して職員が学習する時間を作り準備を行い、できるだけ早くもとの生活に近づけられるように心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意志を確認した上で医療をどのように受けていくのか、施設ができる可能なケアについて事前調査書を作成、同意を得るようにした。終末ケアにおいては家族にその都度十分に説明し、信頼関係の維持に努めている。身寄りのない方においては後見人制度の活用を導入した。	重度化に向けた取り組みは、早い段階から本人、家族の意向を把握し、見取りの指針を提示されている。昨年の課題であった同意書の作成もされ、関係者全体の意思統一も図られていた。職員の不安を考慮して、管理者が勉強会を開くなど、重度化や終末期を自信をもって支えられるような取り組みがされていた。	本人や家族の意向をふまえ、医師、職員が連携を取り、安心した最期を迎えられるよう取り組む姿勢が確認できた。見取り後の他の利用者への影響や、職員の変化にも対応できるよう、今後更に体制を整えられることを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の救命救急の勉強会、対応可能なけあについて知識の共有を図っている。緊急時マニュアルは常に閲覧できる場所に掲示してあり緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練、防災訓練を地域の消防団や住民の参加協力を得ながら行っている。災害時の通報や手順をシュミレーションし、誰でも対応できる体制を作った。また担架の使い方、通報手順など日常的でない行動は適宜役割を持った職員が計画し伝達している。	地域の消防団や住民の協力のもと、避難訓練や防災訓練は人手の少ない夜間を想定して行なわれている。職員は避難の際の役割を認識するとともに、防災への意識も高く、日常的に点検も行なわれていた。個人別の防災頭巾も工夫して作成され、避難場所における安全確保への配慮も確認できた。	非常時の通報手順や消火器の使用方法、設備等の説明をファイルにし、繰り返し確認できるように整えられている。今後も様々な災害を想定し、利用者の状況に応じた避難誘導ができるよう、年間を通じて訓練を繰り返すことを望む。

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を忘れず、本人の気持ちを大切に考えたケアを心がけている。援助が必要などきもさりげなく居室、トイレに誘導しプライバシーを確保するよう心がけている。	職員は、一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切にするような言葉掛けや対応に配慮されていた。利用者ごとに 担当者が写真とコメント入りの生活記録を作成し、日々の表情や思い出が大切に綴られ、家族等に好評であった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面ごとに一人ひとりに合わせた声かけをし、本人の意向に沿うよう努力している。また意思表示が困難な方には表情や反応を観察し、些細なことでも本人の意思を尊重するよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、個々のペースを大切に、個別性のある支援を心がけている。買い物や外食などの希望にはできるだけ迅速に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ季節に合った服装をして頂けるよう心がけている。自己決定ができない利用者さんにはプランとして計画し、職員と一緒に考え本人の気持ちに沿いお手伝いしている。ボランティアで散髪を行い希望があればパーマをかけに行くなどの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜や、季節ごとの旬な食材を取り入れている。利用者さんと調理の準備、片付けなど行う際は一人ひとりのレベルに合わせてやってみたいという前向きな意志や、気持ちを引き出すような声かけを大切にしている。	食事の支度は、利用者や職員との関係作りなどの点から、暮らし全体の中でも重要な位置にある。訪問当日は、利用者や職員によって和やかに焼きそば作りがされていた。食事の際にも、調理の場面を思い出しながらの会話が聞かれ、楽しい食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を職員全員が把握できるよう記録を行い、不足している場合補助食品や半流動食品を取り入れ食べやすいものを工夫している。三食で十分摂取できない場合は夜間の補食ができるよう支援している。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別のケアプランにあわせ、毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて定期的な歯科受診を行い口腔ケアの指導を受けたり、早口言葉や歌や口腔リハビリを行い機能の維持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら表情や訴えに応じた支援を行っている。誘導により失禁の減少があれば布パンツにし皮膚の蒸れを考慮した対応を心がけている。	行きたいときにトイレに行けるよう、利用者の排尿パターンを把握し、自立をめざした取り組みに努められていた。職員は誘導や見守りの際、利用者の自尊心に配慮し、さりげない支援がされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レベルに合わせて、散歩やラジオ体操など全身運動を行うと共に水分補給に心がけている。排泄の状態を観察しながら食品に気を使い最小限の下剤コントロールによって生活習慣を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心や体の負担にならないよう配慮し、無理強いしないよう努めている。本人が入浴したい気持ちを誘い出すような言葉がけ勤め、入浴できないときには清拭、足浴、ベッドでのシャンプーなど行っている。	入浴は利用者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせて、入浴方法や回数など臨機応変に対応されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や疲労感を見て午睡を進めたり、寝つけなかったり、不安の表出がある場合、傍に寄り添える時間をとるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の使用目的、用量を職員が理解して服薬の支援を行えるよう服薬情報を掲示してある。服薬時には必ず氏名、時間を確認し間違いのないよう心がけている。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに応じた得意分野を生かし、料理づくり、洗濯物をたたむ、玄関の掃除、作物の収穫、手芸、音楽療法への参加など個々の楽しみや日常の張り合いになるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院、買い物、時には外食の希望など取り入れられるよう配慮している。音楽文化ホールでのコンサートや地域の文化交流会の誘いにもチャンスがあれば出かけ気分転換を図っている。	一人ひとりの希望を把握し、行きつけの美容院への付き添いや、買い物の支援が行なわれている。閑静な住宅地で、音楽文化ホールまでは散歩コースとしても適しており、戸外へは日常的に出かけられている様子が確認できた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に管理できる方は買い物ができるように現金を手渡したり、希望があればレベルに応じて家族と相談の上自己管理できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯を持ち常に家族と連絡を取り合えるよう配慮している。また家族から電話が入れば気軽に本人と会話ができるよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が順番に利用者さんと一緒に季節に合わせた装飾を行い季節感を感じたり、自然な笑いが保てるような空間づくりを心がけている。	玄関や居間には、生花が生けられたり、季節の飾りつけがされ、家庭的な雰囲気であった。木のぬくもりのある、明るすぎない空間が、安心感と居心地の良い場となり、利用者がそれぞれお気に入りの場所できつろぐ様子が見えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではレベルに応じた仲間や気の合う仲間が隣合わせになるなどの工夫をしている。テーブルの名前を見て自分の居場所が分かり安心が得られるようにしている。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や以前から使われているタンス、人形、椅子などが持ち込まれ、個々に合った居心地の良い空間が作れるよう家族から協力を得ている。	居室には、仏壇やこたつ、利用者の作品や写真、家族の宿泊できるベッドなどが持ち込まれ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している利用者さんの転倒防止目的に部屋の安全性をさりげなく見極め整理できるよう配慮したり、頻繁に転倒を繰り返している利用者さんに対し衝撃吸収サポーターを利用するなど安全性に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年1年間の反省と共に理念の見直し、利用者のニーズと自分たちが目指す目標など話し合いをもち実践につなげるよう心がけている。	「今が一番」「今を楽しく」「今を豊かに」を原点にした支援は、利用者、家族、地域住民等に周知され、支持されている。事業所の理念は、日々のサービスの提供場面の中で、職員が常に立ち戻る根本的な考えとなっており、実践につなげる様子をうかがった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例で地域の老人会の花見、文化祭などの交流会が定着している。季節に応じて果実の収穫時には近所から何回にも分けて差し入れがあったり、ホームで収穫した野菜などのおすそ分けをするなど交流が定着してきた。	「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係をめざして取り組まれてきた。地区文化祭への出品、ホームで収穫した野菜のおすそ分け、納涼会への招待など、地域との交流が継続して行われている様子が確認できた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポートによる地域への認知症学習会に参加できた。人材育成の貢献として積極的に介護福祉士、看護学生などの実習やボランティアを受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月ごとに開催しており、家族、利用者さんを含めた納涼会、花見による交流会など含め日常生活の様子を見ていただいたり、情報交換を行っている。	運営推進会議は、包括支援センター職員、民生委員、地域役員、利用者家族等参加のもと、年6回を目標に開催されている。ホームの行事に合わせて開催することにより、利用者の状況やケアの実情について、参加者の理解を得られる取り組みとなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見制度を利用するにあたり、市担当者と話し合いを持ったり、情報交換を行い協力を得ている。	成年後見制度利用による、市担当者との情報交換や協力関係はあったが、高齢福祉課の窓口との連携は十分ではない。	市民福祉充実の為に、市の担当者が現場の状況を把握することは重要である。実践現場と施策の整合性を図るためにも、事業所の職員や利用者との交流を図れるような取り組み(市職員の研修場所としての事業所の活用など)を、期待する。

外部評価結果(ハーモニ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護、身体拘束に関する研修を受け、職員間で伝達講習を行い、利用者の抑圧感を招いていないかケアカンファレンスにより日常のケアの質向上を図るよう努力している。	職員は研修や勉強会を通じ、身体拘束による弊害を理解し、拘束の無いケアの実践をされていた。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく一緒についていくなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう努められていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、伝達講習を行っている。そこで自分たちのケアや、何気ない会話から虐待行為がないかどうかケアカンファレンスを行いながら個々努力している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者さんに成年後見制度の利用を今年度より開始し、職員間で学習会を持ち制度の内容、利用方法の手順など行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、ケアプランの同意時、運営推進会議などにおいて意見、苦情、要望など気楽に出せるような雰囲気づくりに心がけている。	家族の意向により、家族会は結成されていないが、面会や行事の折には家族の意向、要望を表せる機会を設け、ケアプランに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じてミーティングを行い意見交換を行っている。年1回個人面談を行い常に意見、要望など随時出せるような雰囲気づくりを心がけている。	管理者による個人面談やミーティングにより、職員の意見や要望が運営に取り入れられている。管理者が日常的に介護の状況や実情を把握することで、職員との信頼関係も構築されている。	

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間を通して研修、自己研鑽の努力など自己評価表を用い実績が分かるようにしている。管理者は運営者に対し、職員個々の努力や実績、ケア状況など報告し、各自が向上心を持って働けるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に多くの職員が受講できるように計画している。研修報告は勉強会で発表し、全職員が常に閲覧できるように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと共同で認知症の勉強会に参加(常に7~8名)をし、質の向上に励んでいる。連絡会では2ヶ月に1回の割合で交流会を持ち、互いの悩み、問題、制度など相談できる環境にある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人の求めている生活形態をなるべく崩すことがないよう家族、ケアマネとの入念な情報交換を行い、できる限り安心した生活を送れるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、悩み、意見など気持ちを聞き取った上で、事業所としての対応を話し合い、職員全員が把握できるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望する家族との話し合いを持ち、今の気持ちを理解した上で、また即入所できない場合の対処方法として、他施設の紹介やサービスの利用方法など説明している。		

外部評価結果(ハーモニ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援するのみではなく、共に生活する者として協力し合える環境づくりに努めている。悩みや気持ちを共有できるように利用者さんの性格や、思いを把握し各利用者さんに合った声かけを行うよう配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望、意見を伺うのみではなく、施設行事への参加などを提供して参加いただく事で、共に支えていることを実感して頂いている。緊急時には家族へすぐに連絡を行えるよう体制を整えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域へのドライブや、行きつけの美容院への支援など、なじみの場所を継続的に関わりが持てるように配慮している。	本人を支えたり、本人が支えてきた人間関係を職員は把握し、墓参りやドライブ、美容院への付き添い等の支援がされていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事時には職員も同席し、共通の会話を持つよう努力している。またできるだけ個別に関わり話を聞いたり、外出のきっかけにより一体感になれるよう名環境づくりに努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になって利用者さんのケアの状況、習慣、工夫点などの情報の伝達を行い環境で変わったことからくる心身のダメージなどを考慮した支援を電話や訪問により行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの意向を中心においてプランを計画し、思いが偏らないよう家族に確認したり、カンファレンスで職員の意見交換を行いケアの方向性を話し合っている。	散歩、食事メニュー、入浴など、利用者の意向をふまえ、希望にそったサービスの提供に努められている。楽しみごとや役割の場面も本人本位に検討し、利用者が生き生きと生活できるような取り組みがされていた。	

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を把握することで、一人ひとりのなじみの暮らしとの差を最小限にとめるよう努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の声かけを通して、利用者さん一人ひとりの1日の過ごし方を把握できるよう努めている。ケア内容は個々の力に見合った作業を実施し、それぞれの力が発揮できる環境づくりに心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さん、家族の要望を盛り込み、3ヶ月に一度ケアプランの見直しを行い実践に生かしている。また行き詰まったケアの解決方法にもつながっている。	利用者、家族の意向をふまえて、スタッフで話し合いケアプランを立案している。定期的な見直しのほかに、利用者の表情などから、「本人が本当に望むことは何か」をケアの中で検討し、日常的に話し合い、プランの修正を行なっている様子をうかがった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの日常生活の様子が一目で確認できるワークシートを工夫し活用している。職員が気づいたことや、情報などはその都度個別に記録し共有を図っている。また記録を基に計画の見直し、評価を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望する日に買い物や、美容院、お墓参り、体調を崩したときにその都度、病院に受診するなど対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さんのレベルに応じた作品づくりや地域の文化祭や花見 音楽文化ホールでのコンサート、演芸など見て気分転換を図っている。約1,5ヶ月ごとに美容ボランティアの協力も得られている。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望される方は家族の協力を得ながら継続をしている。また緊急での医療受診の際には職員が同行し、情報の提供や、指導を受けるなど日常生活の中で健康管理を行っている。	看護職員とホームの協力医との連携により、日頃の健康管理は適切に行なわれている。かかりつけ医への定期受診は、家族が利用者の状態を把握する大切な機会であるため、原則的には家族同行であるが、臨機応変に職員も対応されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり日常ケアの中で、常に異変の情報をキャッチし、医師との連携がスムーズに行われるため早めの対応ができ重度化の防止と、入院をできる限り最小限に抑え施設内でのケアが続けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては病院関係者との連携を持ちながら情報交換をし、早めの退院に向けて、その後のケアやり八ビリに対して職員が学習する時間を作り準備を行い、できるだけ早くもとの生活に近づけられるように心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意志を確認した上で医療をどのように受けていくのか、施設ができる可能なケアについて事前調査書を作成、同意を得るようにした。終末ケアにおいては家族にその都度十分に説明し、信頼関係の維持に努めている。身寄りのない方においては後見人制度の活用を導入した。	重度化に向けた取り組みは、早い段階から本人、家族の意向を把握し、見取りの指針を提示されている。昨年の課題であった同意書の作成もされ、関係者全体の意思統一も図られていた。職員の不安を考慮して、管理者が勉強会を開くなど、重度化や終末期を自信をもって支えられるような取り組みがされていた。	本人や家族の意向をふまえ、医師、職員が連携をとり、安心した最期を迎えられるよう取り組む姿勢が確認できた。見取り後の他の利用者への影響や、職員の変化にも対応できるよう、今後更に体制を整えられることを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の救命救急の勉強会、対応可能なけあについて知識の共有を図っている。緊急時マニュアルは常に閲覧できる場所に掲示してあり緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練、防災訓練を地域の消防団や住民の参加協力を得ながら行っている。災害時の通報や手順をシュミレーションし、誰でも対応できる体制を作った。また担架の使い方、通報手順など日常的でない行動は適宜役割を持った職員が計画し伝達している。	地域の消防団や住民の協力のもと、避難訓練や防災訓練は人手の少ない夜間を想定して行なわれている。職員は避難の際の役割を認識するとともに、防災への意識も高く、日常的に点検も行なわれていた。個人別の防災頭巾も工夫して作成され、避難場所における安全確保への配慮も確認できた。	非常時の通報手順や消火器の使用方法、設備等の説明をファイルにし、繰り返し確認できるように整えられている。今後も様々な災害を想定し、利用者の状況に応じた避難誘導ができるよう、年間を通じて訓練を繰り返すことを望む。

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を忘れず、本人の気持ちを大切に考えたケアを心がけている。援助が必要などきもさりげなく居室、トイレに誘導しプライバシーを確保するよう心がけている。	職員は、一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切にするような言葉掛けや対応に配慮されていた。利用者ごとに 担当者が写真とコメント入りの生活記録を作成し、日々の表情や思い出が大切に綴られ、家族等に好評であった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面ごとに一人ひとりに合わせた声かけをし、本人の意向に沿うよう努力している。また意思表示が困難な方には表情や反応を観察し、些細なことでも本人の意思を尊重するよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、個々のペースを大切に、個別性のある支援を心がけている。買い物や外食などの希望にはできるだけ迅速に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ季節に合った服装をして頂けるよう心がけている。自己決定ができない利用者さんにはプランとして計画し、職員と一緒に考え本人の気持ちに沿いお手伝いしている。ボランティアで散髪を行い希望があればパーマをかけに行くなどの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜や、季節ごとの旬な食材を取り入れている。利用者さんと調理の準備、片付けなど行う際は一人ひとりのレベルに合わせてやってみたいという前向きな意志や、気持ちを引き出すような声かけを大切にしている。	食事の支度は、利用者や職員との関係作りなどの点から、暮らし全体の中でも重要な位置にある。訪問当日は、利用者や職員によって和やかに焼きそば作りがされていた。食事の際にも、調理の場面を思い出しながらの会話が聞かれ、楽しい食事風景であった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を職員全員が把握できるよう記録を行い、不足している場合補助食品や半流動食品を取り入れ食べやすいものを工夫している。三食で十分摂取できない場合は夜間の補食ができるよう支援している。		

外部評価結果(ハーモニ-

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別のケアプランにあわせ、毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて定期的な歯科受診を行い口腔ケアの指導を受けたり、早口言葉や歌や口腔リハビリを行い機能の維持に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら表情や訴えに応じた支援を行っている。誘導により失禁の減少があれば布パンツにし皮膚の蒸れを考慮した対応を心がけている。	行きたいときにトイレに行けるよう、利用者の排尿パターンを把握し、自立をめざした取り組みに努められていた。職員は誘導や見守りの際、利用者の自尊心に配慮し、さりげない支援がされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レベルに合わせて、散歩やラジオ体操など全身運動を行うと共に水分補給に心がけている。排泄の状態を観察しながら食品に気を使い最小限の下剤コントロールによって生活習慣を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心や体の負担にならないよう配慮し、無理強いしないよう努めている。本人が入浴したい気持ちを誘い出すような言葉がけ勤め、入浴できないときには清拭、足浴、ベッドでのシャンプーなど行っている。	入浴は利用者の希望を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣、体調に合わせて、入浴方法や回数など臨機応変に対応されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や疲労感を見て午睡を進めたり、寝つけなかったり、不安の表出がある場合、傍に寄り添える時間をとるよう心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の使用目的、用量を職員が理解して服薬の支援を行えるよう服薬情報を掲示してある。服薬時には必ず氏名、時間を確認し間違いのないよう心がけている。		

外部評価結果(ハーモニ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルに応じた得意分野を生かし、料理づくり、洗濯物をたたむ、玄関の掃除、作物の収穫、手芸、音楽療法への参加など個々の楽しみや日常の張り合いになるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院、買い物、時には外食の希望など取り入れられるよう配慮している。音楽文化ホールでのコンサートや地域の文化交流会の誘いにもチャンスがあれば出かけ気分転換を図っている。	一人ひとりの希望を把握し、行きつけの美容院への付き添いや、買い物の支援が行なわれている。閑静な住宅地で、音楽文化ホールまでは散歩コースとしても適しており、戸外へは日常的に出かけられている様子が確認できた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に管理できる方は買い物ができるように現金を手渡したり、希望があればレベルに応じて家族と相談の上自己管理できるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯を持ち常に家族と連絡を取り合えるよう配慮している。また家族から電話が入れば気軽に本人と会話ができるよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が順番に利用者さんと一緒に季節に合わせた装飾を行い季節感を感じたり、自然な笑いが保てるような空間づくりを心がけている。	玄関や居間には、生花が生けられたり、季節の飾りつけがされ、家庭的な雰囲気であった。木のぬくもりのある、明るすぎない空間が、安心感と居心地の良い場となり、利用者がそれぞれお気に入りの場所できつろぐ様子がうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではレベルに応じた仲間や気の合う仲間が隣合わせになるなどの工夫をしている。テーブルの名前を見て自分の居場所が分かり安心が得られるようにしている。		

外部評価結果(ハーモニー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や以前から使われているタンス、人形、椅子などが持ち込まれ、個々に合った居心地の良い空間が作れるよう家族から協力を得ている。	居室には、仏壇やこたつ、利用者の作品や写真、家族の宿泊できるベッドなどが持ち込まれ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している利用者さんの転倒防止目的に部屋の安全性をさりげなく見極め整理できるよう配慮したり、頻繁に転倒を繰り返している利用者さんに対し衝撃吸収サポーターを利用するなど安全性に配慮している。		